Title	2014 年度聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター年次報告書
Author(s)	聖学院大学総合研究所　編
Citation	2015 : 1 -20
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5295
Rights	

聖学院学術情報発信システム ： SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

Seigakuin University and Schools
SEIG

2014 年度

聖学院大学
人間福祉スーパービジョンセンター

年次報告書

聖学院大学総合研究所

はじめに

2015年2月14日(土)に第15回ピア・スーパービジョンが開催された。この会では、福祉の現場で働く本学卒業生４名による報告があった。主催はスーパービジョンセンターであるが、本学人間福祉学科卒業生を中心としたSWnet（聖学院ウェルフェアネット）との共催であった。特に今回は、相川章子先生が公務ご多忙の中にあって、報告者への依頼など、コーディネートの労をとってくださった。参加者は多いとは言えなかったが、すばらしいピア・スーパービジョンの会となった。（この会の詳細は聖学院大学総合研究所　Newsletter Vol24, No.3, 2014に報告されている）

これに先立つ2014年10月11日には、第14回ピア・スーパービジョンの会が開催された。この会の第一部は、「福祉のこころ研究会」との共催で、廣江　仁氏をお招きして、ご講演をいただいた。講演題は「福祉のこころを育むスーパービジョン体験ーバイジーとして、バイザーとしてー」。廣江氏は本学・スーパービジョンセンター創設時からのスーパーバイザーとしてご尽力いただいている。当日の第２部では、助川征雄教授によるミニレクチャ「ピア・スーパービジョンとは？」から始まり、グループに分かれて、ピア・スーパービジョンが行われた。当日は、学内で並行して様々な催しがあったが、牛津学部長、相川章子教授および田村綾子准教授と、SVC 委員会のすべての学内教員が、お姿を現してくださった。（詳細は聖学院大学総合研究所　Newsletter Vol24, No2, 2014に報告されている）

本年も柏木昭名誉教授によるグループ・スーパービジョン、各スーパーバイーザーによる個別スーパービジョンが行われた。（詳細は別記）

例年のことながら、会の立案・運営、広報、予算のやりくりおよび報告書やニュースレターの発行など、すべてにわたって、ご尽力されている総合研究所スタッフ各位に、感謝と御礼を申し上げたい。

2015年３月

聖学院大学総合研究所
人間福祉スーパービジョンセンター長
中村　磐男

目次

1.　事業概要 3
1）目的 3
2）実施体制 3
3）報告書様式 4
2.　事業実績 5
1）スーパービジョンセンター委員会 5
2）スーパービジョン事業 6
(1) グループ・スーパービジョン 6
(2) 個別スーパービジョン 8
(3) スーパーバイザー支援制度 9
(4) ピア・スーパービジョン 9
3.　2014 年度予算 10
4.　決算（2015 年 3 月 31 日） 10
5.　資料１ 11
6.　資料 2 16

I.　事業概要

1)　目的

社会福祉の現場では、日々、さまざまな戸惑い、失敗、ゆれに直面することは少なくない。その結果、不安を抱えて仕事を続けることになり、孤立する人、未来を描けない人も少なくない。これらの壁を乗り越え、燃え尽きない(バーンアウトしない)ための方法として、「スーパービジョン」がある。スーパービジョンとは、スーパーバイザー（熟練したソーシャルワーカー*）が、スーパーバイジー(経験の浅いソーシャルワーカー)に対し、その人の能力が最大限に引き出され、活用されるように支援するものである。具体的には、困難状況や事例に対する関わり方、不安や戸惑いに耳を傾け、受容し、有効なアドバイスをするものである。

2)　実施体制

＜プログラム＞

○ 個別スーパービジョン
　スーパーバイザーによる個別のスーパービジョン（原則毎月１回程度）

○ グループ・スーパービジョン
　スーパーバイザーによるグループ・スーパービジョン（毎月１回）

○ 研修交流会　ピア・スーパービジョン（年２回開催）
　主にスーパービジョンに関する実践理論の勉強や経験交流の場を提供する研修会

○ スーパーバイザー支援制度
　すでにスーパービジョンを行っている人々をサポートする制度

＜場　　所＞

聖学院大学、埼玉県男女共同参画推進センター、など

＜担　当　者＞

柏木　昭	聖学院大学総合研究所名誉教授、（社）日本精神保健福祉士協会名誉会長
相川章子	聖学院大学人間福祉学科教授
田村綾子	聖学院大学人間福祉学科准教授、（社）日本精神保健福祉士協会副会長・研修センター長・認定スーパーバイザー
大野和男	NPO 法人精神障害者のあすの福祉をよくする三浦市民の会ぴあ三浦理事長、元聖学院大学非常勤講師、（社）日本精神保健福祉士協会相談役
行實志都子	神奈川県立保健福祉大学准教授、元聖学院大学非常勤講師
廣江　仁	社会福祉法人養和会指定障害福祉サービス事業所Ｆ＆Ｙ境港（就労継続Ａ型、Ｂ型）所長、（社）日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザー、元聖学院大学非常勤講師

* 熟練したスーパーバイザーとは、（社）日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザーとして精神保健福祉士国家資格を有する者などを言う。

3)　報告書様式

聖学院総合研究所事務室宛（FAX　048-781-0421）

聖学院大学　人間福祉スーパービジョンセンター

実　施　報　告　書

年　　月　　日

<table>
<tr><td colspan="2">スーパーバイザー氏名</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">スーパーバイジー氏名</td><td colspan="2"></td><td>(GSV 記入)

人</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">実施スーパービジョン</td><td colspan="3">□個別スーパービジョン</td></tr>
<tr><td colspan="3">□グループ・スーパービジョン</td></tr>
<tr><td colspan="3">□スーパービジョン支援制度</td></tr>
<tr><td>実施年月日</td><td colspan="4">年　　月　　日（　　）</td></tr>
<tr><td>実施時間</td><td colspan="4">AM　PM　　時　　分 ～　　時　　分</td></tr>
<tr><td rowspan="4">実施場所</td><td colspan="4">①　聖学院大学　(教室名　　)</td></tr>
<tr><td colspan="4">②　埼玉県男女共同参画推進センター（さいたま新都心駅、北与野駅）</td></tr>
<tr><td colspan="4">③　聖学院本部新館（駒込駅）</td></tr>
<tr><td colspan="4">④　その他（　　）</td></tr>
<tr><td>事務局への要望</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>質問</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談料</td><td colspan="2" rowspan="2">金額　　(支払方法)</td><td>会計担当</td><td>事務担当</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
</table>

II. 事業実績

1) スーパービジョンセンター委員会

第 1 回委員会:4 月 16 日(水)11:30～12:30
場　所:3 号館 3204 室
出席者:柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、田村綾子
事務局:大島陽一、木下元、山本悦子、江連さゆり(記録)

第 2 回委員会:7 月 9 日(水)11:30～12:30
場　所:3 号館 3202 室
出席者:柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、田村綾子
事務局;木下元、山本悦子(記録)、江連さゆり

第 3 回委員会:9 月 24 日(水)11:30～13:00
場　所:3 号館 3202 室
出席者:柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、田村綾子
事務局;木下元、山本悦子(記録)、江連さゆり

第 4 回委員会:1 月 14 日(水)11:30～13:00
場　所:3 号館 3202 室
出席者:中村磐男、牛津信忠、助川征雄、田村綾子
欠席者:柏木昭
事務局:木下元、山本悦子(記録)

各回の内容については、後ページ【資料 1】内に掲載する。

2) スーパービジョン事業

(1) グループ・スーパービジョン (GSV)

＜柏木　昭＞

●さいたま市　　原則毎月第２金曜日　18:30～20:30

埼玉県男女共同参画推進センター　With You さいたまセミナー室

開催日	構成メンバー
第１回　2014 年　6 月 13 日	M　介護支援専門員　介護老人保健施設
第２回　2014 年　7 月 11 日	F　社会福祉士　精神保健福祉士　病院
第３回　2014 年　8 月 8 日	F　社会福祉士　病院
第４回　2014 年　9 月 12 日	M　児童発達支援センター　施設長
第５回　2014 年 10 月 10 日	F　精神保健福祉士　自立訓練(生活訓練)施設
第６回　2014 年 11 月　7 日	M　精神保健福祉士　保健所
第７回　2014 年　12 月 9 日	
第８回　2015 年　2 月 13 日	実施回数:8 回　人数:6 名

●石川県

野々市こころのクリニック

開催日	
第１回　2004 年　6 月 27 日	
第２回　2014 年　7 月 11 日	
第３回　2014 年　8 月 29 日	
第４回　2014 年　9 月 26 日	
第５回　2014 年 10 月 31 日	
第６回　2014 年 11 月 11 日	
第７回　2014 年 12 月 19 日	
第８回　2015 年　2 月 27 日	
第９回　2015 年　3 月 20 日	
第10回　2015 年　3 月 21 日	実施回数：10 回　人数：10 名

総 括

スーパービジョンの対象は事例提供者の当事者であるクライエントとの「かかわり」そのものであり、グループスーパービジョン(以下 GSV)はいわゆる事例検討会ではない。スーパーバイザー (以下、SVR) である筆者が終始心がけたことは、順番に事例報告をするメンバーを含め参加者それぞれが、グループ内で相互的に支持的態度を維持し表明することの勧奨であった。参加者は主体的･相互的な関係の中で､それぞれ支持的態度をとることが求められるという基本理念に接し、成長を遂げていく集団過程を経験した。グループスーパービジョン(以下 GSV)では、報告者の担当ケースにおいて、クライエントの状況の改善や、事態の推移乃至問題解決自体よりも、報告者である「ソーシャルワーカーがどうクライエントにかかわろうとしたか、迷いがあったとすればそれはどうしてなのか」を中心として討議がなされた。

報告者はグループスーパービジョン(以下 GSV)の趣旨を当事者であるクライエントによく説明し、支援過程を報告すること、またまとめたレポートをグループに提供したいことの了承を得なければならない。作成したレポートは出来ればグループスーパービジョン(以下 GSV)前に、クライエントに見てもらうことが最善である。しかしそれは間に合わないことも予想されるの

で、事後でも差支えない。要はそれを見てもらいながら、記述を共に吟味できることが、またクライエントとソーシャルワーカーの間の支援関係の新たな展開につながるであろう。

終りに、終始現場まで出向き、応援を惜しまれなかった中村教授、理論的側面でご支援いただいた牛津教授に対し、また木下事務長をはじめ江連、山本両職員には実施場所としての「With You さいたま」の利用許可申請や料金納入等のお世話になったことに対し深く感謝したい。

⑵ その他

＜田村綾子＞

場　　所:さいたま市
実施回数：2回
人　　数：基礎編(半日) 40名
　　応用編(１日) 11名

場　　所:四国
実　　施：2日間
人　　数：応用編(1.5日) 5名
　　フォローアップ編(半日) 4名

総 括

●さいたま市社協スーパービジョン研修

2014年度に続き、さいたま市社会福祉協議会主催の「スーパーバイザー養成研修基礎講座」を実施した。内容は2013年度と同じ２日間コースとし、初日は講義（スーパービジョン概論）とグループ討議を交えての半日間、２日目は初回の受講から約２か月間職場でスーパービジョンを試行し、そのレポートを作成して講義（スーパービジョンの課題）と事例演習を１日かけて行うプログラムである。初日のみの参加も可能とした。

受講者はさいたま市内の高齢者施設・障害児者施設・保育施設等に勤務する職員で、保育士以外の殆どの者は無資格であった。受講動機は職場における後輩や部下の指導に役立てたいというものが多く、特に就職した職員に自覚と誇りを持って働いてもらい、離職を防ぎたいという思いが表れていた。

初回の受講者が 40 名に対し、職場でのスーパービジョンを実施して２日目に臨んだ受講者は 11 名と少なめではあったが、修了者からは「実践してみて初めて気づくことがあった」「実践してから研修に参加することでやっと理解できたように思う」といった感想が多く、座学のみではなく実践に基づく体験的な理解が重要であることが再確認できた。

受講者のアンケート結果は、職場で活かせる内容であったという回答が約９割で、全体として好評であった。ＯＪＴ（on the job training） とスーパービジョンの混同はよく指摘されることであるが、今回の研修でも職場において管理職の立場にあり、部下の教育訓練・指導を担う職員が多く参加していたことから、その方法論の習得を目的として受講している者も多かったようである。しかし、部下の専門職者としての力量を伸ばすための丁寧なかかわりであるスーパービジョンの意義を学ぶことで、後輩や部下のサポートにおいて新たな発想をもって向き合うことができるという可能性を見出し、受講者がエンパワメントされる研修になったと思われる。

福祉業界において利用者は増大する一方、その施策は必ずしも充実していると言えず、慢性的なマンパワー不足や無資格及び知識・技術の乏しい職員が必ずしも十分とはいえない待遇のなかで現場を支えている実態が垣間見えた。このような実情において、少なくとも本研修を通して福祉従事者の自尊心を支え、力量の向上を側面的に支援することが可能ではないか。さいたま市に

おける福祉の充実にささやかながら貢献できればと考える。
　さいたま市社会福祉協議会では本研修を数年間継続予定とのことで、来年度も同内容での実施が確定していることから多くの参加者を歓迎したいと考えている。

●四国更生保護委員会
　社会復帰調整官は、H15 年の大阪池田小学校事件を一つのきっかけとして心神喪失者等医療観察法（略称）が制定され、その中で重要な役割を担う職業として創設された。この職業に就く者の多くは精神保健福祉士としての現場実践経験を有する者であり、本法施行から 10 年経過したところで上席社会復帰調整官が位置づけられ、後輩へのスーパービジョンが職務の一つとなった。本研修は、上席社会復帰調整官に対するスーパーバイザー養成研修事業として 2013 年度に続き、四国４県の保護観察所合同で本学に委託され実施したものである。受講者は昨年度も同研修を受講した者であることから、今年度は受講者がそれぞれに取り組んだ職場外スーパービジョンの実践報告と、それに基づく事例演習をプログラムとする１泊２日の研修として行った。
　受講対象は四国の各保護観察所に勤務する者のうちスーパーバイザーになるべき社会復帰調整官５名であり、うち３名は昨年も受講した者、２名は昨年度にはスーパーバイジーとして本研修に関与した者である。なお、いずれも各県における長い経験を有する精神保健福祉士である。それぞれの職場外スーパービジョンの実施においては、隣県の新任社会復帰調整官とのペアリングを行い、各所属長の承認の下に３回程度のスーパービジョン実践を行い、それに対する丁寧なレポートを持参して本研修に臨まれた。
　研修は、一人ずつ実践報告を行いその内容について詳細に検討するグループスーパービジョンの手法を用いて行った。２年目の受講者になる３名は、いずれも昨年度の同研修で得た学びを活かし、自身の傾向や特性をよく自覚したスーパービジョン実践を意図していたことが伝わる内容であった。ここからは経年での研修実施の意義を感じることができた。またスーパーバイザーとして初受講の２名においても、昨年度のスーパーバイジー経験が活かされ、注意深く自己洞察しながら実践したことが伝わるレポートであった。このことから、スーパーバイザーになる過程におけるスーパーバイジー体験の意義が感じられた。
　いずれの実践においても、新任者の語りに聞く姿勢やサポーティブな態度が貫かれたことがうかがえた。また一人ひとりは、新任調整官の不安や悩みを聞くことで、自身の職場での後輩へのＯＪＴにも変化があったことやスーパービジョンの必要性を再確認したことが大きな気付きであったとふり返っていた。予算確保や人事異動等も懸念されるなかではあるが、次年度も同研修の継続が求められていることから引き続き携わることができればと考える。
　なお、本研修の事業受託契約にあたっては、学長支援室の浦沢氏・寺嶋氏にも多大なご尽力をいただいたことを感謝したい。

(1)　個別スーパービジョン

＜助川征雄＞
実施回数：延べ 18 回
場　　所：助川研究室
人　　数：2 名

＜相川章子＞
実施回数：延べ　12 回
場　　所：相川研究室
人　　数：2 名

＜田村綾子＞
実施回数：延べ　　2 回
場　　所：田村研究室
人　　数：1 名

⑵ スーパーバイザー支援制度

＜田村綾子＞
実施回数：3 回
場　　所：本学研究室
人　　数：1 名

⑶ ピア・スーパービジョン

①第 14 回ピア・スーパービジョン
日時：2014 年 10 月 14 日（土）13：30～16：30
場所：聖学院大学 4 号館 4 階第一会議室
人数：19 名（関係者含む総人数）
内容：第一部　講演
『福祉の心を育む～スーパービジョン体験～バイジーとして、バイザーとして～』
講師:廣江　仁　社会福祉法人養和会指定障害福祉サービス事務所 F&Y 堺港所長
第二部 ピア・スーパービジョン
ミニレクチャー「ピア・スーパービジョンとは？」
講師:助川征雄　聖学院大学人間福祉学科教授・人間福祉スーパービジョンセンターSVR
グループディスカッション
総合司会：山田裕太（SWnet　98W）

②第 15 回ピア・スーパービジョン
日時：2015 年 2 月 14 日（土）13：30～16：30
場所：聖学院大学 4 号館第一会議室
人数：18 名（関係者含む総人数）
内容：第一部　卒業生からの報告
・深瀬久博(98W)
・鳥居淑惠(103W)
・川田法子(104W)
・木下優輔(109W)
第二部　ピア・スーパービジョン
グループディスカッション
総合司会：山田裕太（SWnet　98W）

ピア・スーパービジョンプログラムは、後ページに資料として掲載する。

III. 2014 度予算

【収入】

項　目	内　容	金　額
受講料	グループ・スーパービジョン	550,000
受講料	グループ・スーパービジョン（卒業生）	100,000
受講料	個別スーパービジョン	90,000
受講料	個別スーパービジョン（卒業生）	10,000
	合　計	750,000

【支出】

項　目	内　容	金　額
報酬・委託・手数料	スーパーバイザー謝礼、ピアＳＶ講師謝礼	231,000
消耗品費	色上質紙、コピー用紙	10,000
旅費交通費	スーパーバイザー交通費	384,000
通信運搬費	リーフレット・グループＳＶ・ピアＳＶ案内送付	126,000
印刷製本費	リーフレット増刷	112,000
集会費	スーパーバイザー情報交換会	10,000
賃借料	グループＳＶ会場代	20,000
	合　計	893,000

IV. 決算（2015 年 3 月 31 日）

【収入】

項　目	内　容	金　額
受講料	グループ・スーパービジョン	530,000
受講料	グループ・スーパービジョン（卒業生）	60,000
受講料	個別スーパービジョン	180,000
受講料	個別スーパービジョン（卒業生）	18,000
	合　計	788,000

【支出】

項　目	内　容	金　額
報酬・委託・手数料	スーパーバイザー謝礼、ピアＳＶ講師謝礼	296,370
消耗品費	色上質紙、コピー用紙	0
旅費交通費	スーパーバイザー交通費	437,902
通信運搬費	リーフレット・グループＳＶ・ピアＳＶ案内送付	138,274
印刷製本費	リーフレット増刷	0
集会費	スーパーバイザー情報交換会	0
賃借料	グループＳＶ会場代	17,460
	合　計	890,006

【資料 1】2014 年度 スーパービジョンセンター委員会記録

第 1 回委員会:4 月 16 日(水)11:30～12:30

場　所:3 号館 3204 室
出席者:柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、田村綾子
事務局:大島陽一、木下元、山本悦子、江連さゆり(記録)

Ⅰ. 前回議事録　変更がある場合は近日中に連絡

Ⅱ. 報告事項

1.　個別スーパービジョン
現時点では実施していない。

2.　グループ・スーパービジョン
・柏木
参加者 1 名への対応について、SVR として反省が残った。
・助川
さいたま市 GSV(2013 年度予定通り実施済)

3. その他
・相川:上越地方の方と 3/1 勉強会実施
・事務局より:1. 2014 年 4 月より学事局長および学術支援部長に大島陽一氏が就任
2.次回制作する本の校正をお願いしたい。
3. 2013 年度決算　予算 612,000 円、執行額 585,815 円、残金 26,000 円
4. 2014 年度予算は 740,000 円

Ⅲ. 検討事項

1. 個別スーパービジョン
・柏木　実施しない。
・助川　2 名実施
・相川　2 名予定
・田村　3 名終了、2 名継続
・廣江　継続する予定ではないかと思われる。
・大野　申込者がいれば開始する→助川先生より確認いただく。
再開時には、担当者と受講者が連絡をとりあって日時を決定するが、住所・連絡先などの変更がないかどうか確認する。

2. グループスーパービジョン
・柏木　6 月から 3 月まで 8 月を含む計 10 回で開催予定[柏木先生](4 月下旬に告知開始予定)
石川県精神保健福祉士協会と委託事業として契約できれば、予算の目処がたつため、契約できれば実施することとして、協会と事務局で具体化していく。田村先生からも確認をしていただく。
・助川　さいたま市と予定している(昨年同様年 3 回程度)
・田村　さいたま市社協と予定している。

3. ピア・スーパービジョン
・10/11　第 14 回 PSV[予定]
・ 2/14　第 15 回 PSV[予定]

4. 年次報告書について
・SV 受講者の名前は伏せ、人数のみ記載する。　・「はじめに」の執筆担当：中村先生
・田村先生:GSV さいたま市(2 回)＆四国(2 回)を加筆する。
・GSV 総括部分の受講者の名前を伏せた原稿を事務局が修正
→委員が確認し、了承を得て年次報告書へ掲載する。

5. その他
・個別 SV と SVR 支援制度の報酬についての検討

≪SVC 委員会開催検討案≫
・7/ 9　　第 2 回 SVC 委員会
・9/24　第 3 回 SVC 委員会[検討]
・1/21　第 4 回 SVC 委員会[検討]

第 2 回委員会:7 月 9 日(水)11:30～12:30
場　所：3 号館 3202 室
出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、田村綾子
事務局：木下元、山本悦子(記録)、江連さゆり

Ⅰ. 前回議事録承認

Ⅱ. 報告事項

1. 個別スーパービジョン
・柏木　定例での実施はしていないが、理事長を務める NPO 法人けやき精神保健福祉会での個別 SV を行いたい。これに対し、学内のシステム上での実施であれば正式な契約を交わし、申請書等の書類を提出することを委員会より示した。
・助川　2 名実施。内 1 名は日高市でグループホーム立ち上げ計画が有り、アドバイスをしている。
・相川　2 名継続。内 1 名は今月末実施予定。1名は 8 月契約の為、今後の契約を確認する。
・田村　実施無し。
・廣江　2 名継続。実施報告書が未提出であることから提出依頼と今年度の契約について確認をする。(相川先生報告)

2. スーパーバイザー支援制度
・田村　さいたま市保護観察所精神保健福祉士との受託契約締結予定

3. グループ・スーパービジョン
・柏木　①埼玉 6/13 より開始　　人数 6 名　　5/13 にオリエンテーション実施済
②石川 6/27 より開始　　人数 10 名　2015 年 3 月 20 日までの計 10 回実施予定
※石川県からの補助金について事務局より報告
・助川　①さいたま市保健所　年 3 回 (7/15、10 月、2 月に実施予定)
②茨城県青少年福祉センター　2 月に実施予定

4. 2013 年度年次報告書について
7 月中に見直し、SERVE にアップする。

5. その他
・田村　①四国更生保護委員会よりSV 養成研修依頼を受け、来年 2 月、香川県にて実施予定
契約締結手続きは、昨年同様学院長室に依頼をする。
②さいたま市社協との SV 養成講座を 7/30(水)、10/4(土)実施予定。書籍販売を行う。
・謝金案作成について：
以前から保留になっている個別 SV と専門性を要する SVR 支援制度の謝金額を検討する。現状把握と提案の為、謝金に関する一覧表を相川先生へ提示する。

Ⅲ. 検討事項
(1) ピア・スーパービジョンについて
第 14 回PSV (10/11)
講演者：相川先生より行實先生へ打診。テーマを相談。タイムスケジュール:昨年通り。
チラシの作成・発送等：9 月上旬の告知に間に合うよう 8 月中に作成をする。
第 15 回PSV (2/14)
卒業生の負担も大きいため、SVC 委員会がサポートし、実施をしていく方向で進める。
(2) スーパービジョン委員会開催日について
第 3 回SVC 委員会 9/24〔予定〕
第 4 回SVC 委員会 1/21〔予定〕
(3) その他
大野先生、行實先生、廣江先生への今年度契約の継続依頼は、相川先生と田村先生からして頂く。

第 3 回委員会:9 月 24 日(水)11:30～13:00
場　所：3 号館 3202 室
出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、田村綾子
事務局：木下元、山本悦子(記録)、江連さゆり

Ⅰ. 前回議事録承認

Ⅱ. 報告事項

1. 個別スーパービジョン
・柏木　実施していない
・助川　2 名実施
・相川　2 名実施
・田村　1 名実施、1名は遠方であり、転職もされたことから終了
・廣江　2 名 2013 年度で終了、2014 年度の新規無し(相川先生報告)

2. グループ・スーパービジョン
・柏木　①埼玉県：6 名　6/13、7/11、8/8、9/12　第4回まで実施
②石川県：10 名　6/27、7/25、8/29 実施　、9/26 実施予定
・助川　さいたま市保健所　7/15 実施　、次回 10/14 実施予定
・相川　上尾市福祉会　杜の家のピアサポーター4 名　毎月研究室を中心に実施

3. スーパーバイザー支援制度
・田村　さいたま市　9/10 実施

4. その他
スーパービジョン養成講座
・田村　①さいたま市社協　第1回(基礎編)を7月に実施　第2回目(応用編)10/3 実施予定
②北海道精神福祉士協会　9/27、9/28 実施予定

Ⅲ. 検討事項

PSV について
プログラムをもとに担当確認をした。
① 挨拶者は、当日 SWnet から選出　②ミニレクチャーは助川先生に依頼　③当日は OC と重なるため、開催挨拶の牛津先生と閉会挨拶の中村先生を入れ替える　④総合司会(山田裕太氏 98W)了解済　⑤講演司会は、講師紹介も兼ねるため相川先生にして頂く　⑥懇親会 18 時～大宮にて

第 4 回委員会:1 月 14 日(水)11:30～13:00

場　所:3 号館 3202 室
出席者:柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、田村綾子、相川章子
事務局:木下元、山本悦子(記録)

Ⅰ. 前回議事録承認

Ⅱ. 報告事項

1. 個別スーパービジョン
・柏木　実施していない
・助川　2 名実施
・相川　実施していない
・田村　実施していない
・廣江　新規無し

2. グループ・スーパービジョン
・柏木　①埼玉県:6 名　6/13、7/11、8/8、9/12　第4回まで実施
②石川県:10 名　6/27、7/25、8/29 実施、　9/26 実施予定
・助川　さいたま市保健所　7/15 実施　、次回 10/14 予定
・相川　上尾市福祉会　杜の家のピアサポーター4 名　毎月研究室を中心に実施

3. スーパーバイザイー支援制度
・田村　さいたま市　12/10 実施 、次回 2 月に予定　年度末に支払の精算をする。

4.その他
・田村　①さいたま市社協　10/3に実施した。年 2 回。第 1 回目は講義、第 2 回目は実践の場としてグループ報告をした。
②四国更生保健委員会　1 月末実施予定
③北海道精神福祉士協会　9/27、28 実施

・第 15 回 PSV について
別紙チラシ、プログラム(案)をもとに実施内容と役割を確認した。

Ⅲ. 協議事項

・来年度の活動について
① 石川県 GSV については、石川県側の来年度実施の要望を踏まえた上で、活動を調整する。
助川先生と田村先生に対応をして頂く。その他の活動は従前のとおり継続する。
②PSV 開催予定確認
2015 年 10 月 10 日(土)第 16 回 PSV 「福祉のこころ研究会」と共催
2016 年 2 月 13 日(土)第 17 回 PSV

【資料2】2014年度　ピア・スーパービジョンプログラム

― 第14回 ピア・スーパービジョン ―

挨　拶　　中村 磐男　聖学院大学こども心理学科教授・人間福祉スーパービジョンセンター長
　　ＳＷnet　深瀬久博（98W）

講　演「福祉のこころを育む　スーパービジョン体験～バイジーとして、バイザーとして～」
　　講師　廣江 仁　社会福祉法人養和会指定障害福祉サービス事業所F&Y境港　所長、
　　社団法人日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザー、元非常勤講師

質疑応答

ピア・スーパービジョン

ミニ・レクチャー　「ピア・スーパービジョンとは？」
　　助川 征雄　聖学院大学人間福祉学科教授・人間福祉スーパービジョンセンターSVR

グループ・ディスカッション

グループ発表（全体共有）

コメントとまとめ　　柏木 昭　聖学院大学総合研究所名誉教授・人間福祉スーパービジョンセンター顧問

閉　会　　牛津信忠　聖学院大学人間福祉学部長

― 第15回 ピア・スーパービジョン ―

挨　拶　中村磐男　聖学院大学こども心理学科教授・人間福祉スーパービジョンセンター長

卒業生からの報告

深瀬久博　（ 98W）有料老人ホーム　社会福祉士
鳥居淑恵　（103W）在宅介護支援センター　社会福祉士・精神保健福祉士
川田法子　（104W）けやき亭［NPO法人けやき精神保健福祉会］精神保健福祉士
木下優輔　（109W）稲城台病院　精神保健福祉士

ピア・スーパービジョン（グループ・ディスカッション）

グループ発表（全体共有）

コメントとまとめ

柏木昭　　聖学院大学総合研究所名誉教授・人間福祉スーパービジョンセンター顧問
助川征雄　聖学院大学人間福祉学科教授・人間福祉スーパービジョンセンターSVR
相川章子　聖学院大学人間福祉学科教授

閉　会　牛津信忠　聖学院大学人間福祉学部長

報　告

聖学院大学総合研究所　人間福祉スーパービジョンセンター主催

第 14 回ピア・スーパービジョン 報告

(2014 第 1 回福祉のこころ研究会 [第一部のみ]・SWnet(聖学院ウェルフェアネット) 共催)

2014年10月11日（土）、聖学院大学４号館4402教室を会場に「第14回ピア・スーパービジョン」が開催された。今回のピア･スーパービジョンは､「福祉のこころ研究会」と「SWnet（聖学院ウェルフェアネット)」との共催である。第一部は、福祉のこころ研究会との共催で講演会（発題）及び質疑応答が行われた。休憩を挟んだ第二部では、実際にスーパービジョンを行い、少人数グループでの討論による共同研究が行われた。出席者は講師含めて19名であった。

開会の挨拶は、中村磐男教授（聖学院大学こども心理学科・人間福祉スーパービジョンセンター長が務められた。

第一部の講演の講師を務められたのは、廣江仁氏（社会福祉法人養和会障害福祉サービス事業所F&Y境港所長、社団法人日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザー、元聖学院大学非常勤講師)、講演題は、「福祉のこころを育むスーパーバイザー体験～バイジーとして､バイザーとして～」であった。以下は、講演の要約である。

「福祉のこころ」とは何か、それは、「互酬」（阿部志郎)、「自立と共生」（長谷川匡俊)、「自尊心を尊重する」（濱野一郎）などである。バイザーの役割とは､この「共生」を重視することである。「共」という字は、その漢字の形を見てみると、左右の手でお供え物を神に捧げる様子を表している。さらに「共」に心をつけると、「恭しい（うやうやしい)」という漢字になり、礼儀正しく丁寧である、という意味となる。バイザーにとって自己研鑽は、自分の成長のために不可欠なことであるが、しかしその研鑽は、「共」にある心がなければならない。そうでなければ、自己研鑽は、ただの自己満足に終わってしまう危険性を孕んでいる。しかし逆の言い方をすれば、この「共」にある心によって、自己研鑽がバイザーとしての豊かさにつながるのである。

ソーシャルワーカーの働きは対人職種がメインであるが、ワーカーが向き合う人間は誰一人として同じわけではなく、性格の違い、やり方の違いなど、個別に応じた対応が求められる場合がほとんどであり、仕事をパターン化することができない。よって、ソーシャルワーカーの働きを健全に行うために、スーパーヴィジョン（以下SV）は、不可欠な活動である。しかし経験が乏しい場合、SVを行うことに対して、不安や恐れが伴いがちである。自分を曝け出すのが怖かったり、厳しく指摘されることを恐れたり、SVのやり方をそもそも把握できていなかったり等、様々な不安からSVを妨げる心理的要因がある。しかしSVは、ソーシャルワーカーとして成長し、抱えている不安を軽減するための最善の方法であることをいつも理解していなければならない。

第一部公演会風景（上段右：廣江　仁　講師）

SVに際して大切なことは、スーパーバイザーとスーパーバイジーの相互性の認識である。SVを行うことによって、スーパーバイジーにだけ、変容が起こるわけではない。バイジーのみならず、バイザーもまた成長を促されるのである。この両者が共に成長するところに、SVの最も大きな意義があるといってもいい。SVによって、両者が元気を与えられ、新たに仕事に向き合うことができるようになる。だから、特別なこととは思わずに、気軽にSVを受けられるような雰囲気づくりと自分自身の認識が肝要である。ソーシャルワーカーには少なからず、燃え尽きてしまいそうな時、仕事に対して無気力になる時、自らの力量を超えるような壁にぶつかり、挫折しそうに思える時がある。様々な克服の仕方はあるにせよ、SVは困難を乗り越える時を提供してくれる有意義な活動であることに間違いない。

廣江氏は、自らの現場の経験を豊富に織り交ぜながら、参加者に対して、SVの意義を丁寧に語られた。

第二部は、「ピア・スーパービジョン」として、実際に少人数のグループに分かれて討論をし、共同研究の時を持った。冒頭に、助川征雄教授（聖学院大学人間福祉学科・人間福祉スーパービジョンセンターSVR）から、「ピア・スーパービジョンとは？」と題するミニ・レクチャーを伺った後、実際にスーパーヴィジョンが行われた。個人情報保護のため内容は割愛せざるをえないが、一人一人が率直な意見を出しあうと共に、現場で働くソーシャルワーカーや学生が、立場を超えて聞きあい、他者の意見を否定することなく共有することを重んじていたことが印象的であった。

閉会の辞は、人間福祉学部長兼人間福祉学研究科長牛津信忠教授、当日は、オープンキャンパスや大学院福祉学研究科講演会などと予定が重なったが、相川章子教授は初めから、助川教授はミニ・レクチャー担当、オープンキャンパスの担当を終えた田村綾子准教授も駆けつけ、SVC委員会のすべての学内教員が顔を揃えた。

上段：第二部PSV風景
下段左：中村磐男スーパービジョンセンター長
下段右：助川征雄スーパーバイザー

（文責：五十嵐成見 [いからし・なるみ] 聖学院大学大学院博士後期課程在学）

聖学院大学総合研究所　人間福祉スーパービジョンセンター主催（SWnet（聖学院ウェルフェアネット）共催）
第15回ピア・スーパービジョン 報告

2015年２月14日（土）聖学院大学にて、第15回ピア・スーパービジョンが開催された。ピア・スーパービジョンとは保健・社会福祉現場や一般企業において、対人援助の仕事をしている人たちが、実践に必要な“かかわり”について見つめ直し、お互いに知り合い、情報交換を行うための研修と交流の場である。今回のプログラムは本学人間福祉学科の卒業生が中心になって組織した福祉のネットワーク“SWnet”による企画運営と聖学院大学総合研究所の人間福祉スーパービジョンセンターとの共催により行われた。当日の参加者は15名であった。

今回は福祉の現場で働く卒業生４名による報告を聞いた後、参加者一同、１つのグループのなかで、ピア・スーパービジョンを行った。

「ピア・スーパービジョンからみえてくるもの」深瀬久博

現在の職場で、ヒヤリハットを簡略化した取り組みや、アクティビティの目的をICFに求めた取り組みを中心に発表させて頂いた。参加者とは、課題を見つけ、解決に取り組む姿勢は共通していると認識することができた。柏木先生が総括のなかで言われた「自己決定は関わりの中で共に作るもの」。この言葉に、求めていた意味は集約されていた。仕事をしてきた歩みが、行き先を見失わせていた。私たちがどこへ向かうか、確認する場としてここがある。（文責：ふかせ・ひさひろ、有料老人ホーム勤務。社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士、2001年度聖学院大学人間福祉学科卒業）

「ピア・スーパービジョンに参加して」鳥居淑恵

私は居宅介護支援センターで介護支援専門員として働いている。今回のPSVで業務内容、事例をふまえての日々の葛藤や喜びを発表させて頂いた。この経験は自分の業務内容を振り返り、言葉で表現し聞いてもらう事で、考えていた以上の思いや葛藤、課題を自覚することができた。私の課題は「何のためのソーシャルワークなのか」という葛藤だった。今回のPSVで、様々な職種、業務、立場の方々のお話を聞く事で、自己決定は関わりの中で一緒に作りあげていくという原点を共有できたことが私にとって貴重な時間となった。（文責：とりい・よしえ　在宅介護支援センター勤務。社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員、2007年度聖学院大学人間福祉学科卒業）

「ピア・スーパービジョンから学ぶこと」川田法子

私が、ピア・スーパービジョンに期待することは振り返りの場、はき出す場、新たな活力の場である。今回私は自分の話をする機会を頂き、現場

１年目に行った個別スーパービジョンの経験、そのときから継続している利用者とのかかわりを発表した。振り返ること、発表で吐き出すことは自分の課題の確認になる。仲間との出会いや共感の言葉はやる気、学びになる。年齢も職場も様々であったが、共に学ぶ気持ち、相手を受け入れる気持ちが伝わり、期待していたことを行うことができた。今後もこのような機会を活用していきたい。（文責：かわだ・のりこ　就労継続支援B型事業所けやき亭勤務。精神保健福祉士、社会福祉士、2007年度聖学院大学人間福祉学科卒業）

「課題、戸惑っていること」木下優輔

今回のピア・スーパービジョンでは、現在の業務内容の紹介、日々の業務の課題や問題点、戸惑っていること等を報告させていただいた。私は、大学卒業後、精神科病院に勤めている。約400床の病床数に対してソーシャルワーカーの数は、５名である。入院患者さんは、高齢で病状が慢性期の方が多くいる。主な業務は、外来通院の相談、入院前から退院後の生活に関するあらゆることに対する相談支援や患者さんとの面接、訪問、同行支援、関係機関とのサービス調整等であり、多様な業務内容・実践範囲である。業務の課題は、新規入院の連絡調整、様々な書類の作成等があり、患者さんへのかかわりの保障が難しい時もあることや日々の業務で自分自身の振り返りができずにいることである。今後は、かかわりの保障ができるように業務内容･体制の見直しや改善を職場内のソーシャルワーカー同士で話し合う機会を設けることや、業務においての悩み、思い、葛藤などにしっかり向き合い、自分自身の振り返りを行えるようにスーパービジョンを積極的に活用していきたい。（文責：きのした・ゆうすけ　医療法人社団研精会稲城台病院（精神科病院）医療相談室勤務。精神保健福祉士、2012年度聖学院大学人間福祉学科卒業）

まとめ

今回のピア・スーパービジョンでは、４名のシンポジストと参加者一同が集い、それぞれの葛藤や思いを共有する時となった。今回のプログラム全体を通じて、あらためてソーシャルワーカーとしての“かかわり”と“自己決定”の原理の大切さに気づくことができた。シンポジストを含め、参加者の職域は介護現場、NPO、病院、社会福祉法人、企業、学校など、多岐に亘っている。後半の総括での柏木昭先生や助川征雄先生、牛津信忠先生のコメントにもあった「原理､原則に立ち返っていく」姿勢や利用者や家族の置かれている状況（人と状況の全体性）を「鳥の目のように俯瞰（ふかん）して視ていく」視点は、ソーシャルワーカーとして仕事をしていく上で共通の基盤となっていくのではないだろうか。今回のプログラムからの”学び“や“気づき”を忘れずに実践に活かしていくためにも、人間福祉スーパービジョンセンターと“SWnet”はともに相互的に支え合っていく役割を担っている。

（冒頭・まとめのみ文責：山田裕太［やまだ・ゆうた］聖学院大学勤務。2001年度 聖学院大学人間福祉学科卒業）